

【2020年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
薬理学		選択	2	2,3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
永井 正則	B304	mnagai		水曜,木曜 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;薬物の代謝と作用、作用メカニズムについて「生理学」や「内科学」、「病理学」などの知識と関連づけながら学ぶとともに、薬物の安全性や取扱いについても理解を深め、将来リハビリテーションや福祉の現場に立つときに役立つ総合力を身につける。</p> <p>&lt;概要&gt;自宅学習課題と同時双方向型授業により学習する。</p>				
学習上の助言	<p>生理学を履修していることが望ましい。「生理学」の内容にも触れながら授業を行う。自宅学習は予めメールで学習課題を各自に送り、レポート提出を求め、その後フィードバックをする。同時双方向授業では、その授業で学んだこと、わかりづらかった点、質問などをリアクションペーパーとして授業後に提出することを求める。わかりづらかった点や質問には次回以降の授業時に対応する。授業中に特に指定した図表については、自身で説明できるようにする。</p>				
教科書	はじめの一步の薬理学 第2版/著：石井邦雄・坂本謙司/羊土社/2020				
参考書	生理学 (3版) /著：内田さえ 他/医歯薬出版 (1年次に使用したもの)				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	薬物の代謝について理解し説明できる。			HSU(2), (3), (5)	
②	薬物の作用と作用メカニズムを理解し説明できる。			HSU(2), (3), (5)	
③	薬物の安全性や取扱いについて理解し説明できる。			HSU(2), (3), (5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	「薬とは」：人類と薬物の使用：太古から人類が身近な自然界の成分を薬物として利用してきたことを学ぶ。薬、薬物、薬剤などの用語を整理して理解する。市販薬の分類について理解する。	自宅学習 (課題の送付、レポートの提出、フィードバック)	課題①：人類による天然物の薬効の利用、課題②：2種類の抗炎症薬	6	
2	「自律神経系の伝達物質とその作用」：自律神経系の伝達物質の作用が臓器によって異なることを学び、薬物の標的としての臓器を理解する。		課題：交感神経と副交感神経の作用の違い	6	
3	「伝達物質および薬物の受容体」：受容体について学び刺激薬、遮断薬、拮抗薬などの理解に結び付ける。		課題：ホルモンと神経伝達物質の受容体	6	
4	「高血圧とその治療薬」：血圧調節の原理を再確認した上で、高血圧治療薬をその作用機序から大きく3つに分類して理解する。薬物がどのような目的で使われるかを理解する。		課題：高血圧の治療薬をその作用によって3つに分類して整理する。	6	
5			課題：局所麻酔薬について、使用の目的、種類、作用機序、アドレナリンと併用する場合	6	
6	「神経に作用する薬：局所麻酔薬」：神経の興奮、抑制のメカニズムを再確認した上で、イオンチャネル内蔵型受容体と薬物について理解する。痛みと局所麻酔の適用について学ぶ。		課題：神経筋遮断薬について、①骨格筋の収縮メカニズム、②競合性遮断薬と脱分極性遮断薬との違い	6	
7	「神経筋遮断薬」：運動神経による骨格筋収縮のメカニズムを再確認した上で、神経筋遮断薬とその適応について学ぶ。		課題：虚血性心疾患とその治療薬：抗凝固薬、ニコチン酸誘導体、心不全の治療薬などについて学ぶ。	4	
8	「不整脈とその治療薬」：心筋の活動電位へのイオンチャネルブロッカーの作用などについて学ぶ	課題：不整脈の種類とその治療薬	4		
9	「薬理学総論①」：薬物療法の種類、主作用と副作用、コンプライアンス、プラセボ効果などについて学ぶ。	課題：薬物療法の目的と種類、主作用と副作用、プラセボ効果	4		
10		課題：薬物の投与経路と血中濃度の時間経過、薬物の代謝と排泄	4		
11	「薬理学総論②」：薬の投与方法と投与経路、血中濃度の時間経過、薬の代謝と排泄、薬物の相互作用、薬物と食品などについて学ぶ。	課題：テラーメイド医療、薬害	4		
12	「薬理学総論③」：テラーメイド医療、新薬の開発、薬害、医薬品医療機器法などについて学ぶ。	課題：医薬品医療機器法などについて学ぶ。	4		

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系/旧カリキュラム】

13	「気分障害・不安障害とその治療薬」、「不眠症とその治療薬」： GABA 受容体作動薬、セロトニン再取り込み阻害薬などについて学ぶ。睡眠障害をもたらす薬物などについて学ぶ。	同時双方向型授業	課題：不安障害と不眠症の 治療薬	4					
14	消化器・代謝疾患とその治療薬：消化性潰瘍、糖尿病の治療薬、骨粗鬆症などの治療薬について学ぶ。		課題：消火器・代謝疾患 とその治療薬	4					
15	感染症とその治療薬：抗菌薬について学ぶ。		課題：抗菌薬の種類と作 用	4					
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照								
達成度評価									
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		70	30	0	0	0	100		
総合力 指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50		
	思考・推論・創造する力	20	20	0	0	0	40		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0		
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	✓	定期試験を行う。試験の配点は 70 点とし、基礎的知識を問う問題と応用的問題を出題する。試験に先立って、問題集を配布する。問題集はサブノートとして利用できるよう工夫されているので講義終了後も活用してほしい。				定期試験後に試験問題の解答と解説を配布する。		
	②	✓							
	③	✓							
	④								
	⑤								
	⑥								
レポート	①	✓	自宅学習課題のレポートは 7 課題で 30 点として評価する。				レポートは 1~2 課題ごとにフィードバックする。		
	②	✓							
	③	✓							
	④								
	⑤								
	⑥								
成果発表	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
備 考									
Teams を使って遠隔授業を行います。課題ダウンロードなどがありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意してください。同時双方向型授業は時間割に沿って行います。10 分前には準備を整えておいてください。今後、シラバスが再び変更される可能性があります。									